

令和2年6月26日

大学入試の在り方に関する検討会議への意見書

原 真里

兵庫県立大学附属高等学校

(公益財団法人子どもの貧困対策センターあすのぼ)

私は兵庫県の公立高校の2年生です。公益財団法人あすのぼで高校生メンバーとして活動しています。あすのぼは、子供の貧困対策センターであり、多くの人に子どもの貧困問題が他人事ではなくもっと身近に感じてもらうことを目指して活動し、またその多くの子どもたちに支援をしたり、心休まる場所を提供する団体です。

あすのぼと繋がったきっかけは中学1年生で、新聞で見かけた小中春合宿キャンプの記事でした。中学1年生と、3年生の計二回参加し、高校1年生の夏にも高大夏合宿キャンプに参加しました。そしてあすのぼという団体に興味を持ち、継続的にかかわりたいと思い、今に至ります。

今回は大学入試について、私だけでなく友人も含めた高校2年生の状況や考えを知っていただくことができればと思います。

以下、5点意見を述べます。

(1)若者の意見を聞くことを大切にしていきたいです

大学入試を受験するのは高校生です。今後も、今日のこの会議のように高校生の意見を聞いて考えていただくことを大切にしていきたいです。

私は今回の会議にあたって10人以上の友人や先生に簡単なアンケート調査を行いました。その結果、この議題に対して私自身も含め、周りの高校生はひどく混乱している現状でした。

私は去年の高校1年生時に、大学入試に英語民間試験や記述式テストを導入するという話を突然聞き、戸惑いました。

しかし、それが延期になったということで、また更に戸惑いました。

これは私自身に限らずアンケート調査によって多くの高校生が同じ状況に置かれているということが分かりました。

入試の方針を世間に公表する前にあらゆる問題点等を予想して対策を取り、様々な面から考慮してほしいです。公表する際は問題点がそれ以上ないか、またあったとしてもきちんと対策がとれているかをしっかり確認してから公表してほしいです。

そのような発言により何万人もの人々が影響され戸惑うことを考え、責任感を持って発言していただきたいです。

(2)英語民間試験について

アンケート結果より、英語民間試験の導入はあまりよく思われていないことが分かりました。

その理由として主に金銭面や、地域の差、採点の誤差、学校で対策が取られている所とそうでない所との差、また、一発勝負にならないとの意見がありました。

まず金銭面については、受験料や会場までの交通費などを考えると、安い試験でも1回1~2万円かかってしまいます。

地方の高校生は、家が裕福でない生徒たちも多く、この金額では受けにくい試験です。何回もチャレンジできる人とそうでない人とで、どうしても差がついてしまいます。

また田舎に住んでいる人は都会に住んでいる人と比べてそもそもチャレンジできる機会に大きな差が生まれると思います。

何回も英語民間試験を受けられる人ほど有利になるような試験は不公平だと思います。

採点の誤差について。

英語民間試験は毎回問題が異なります。それを全部一種類として採点するのはどこかで必ず誤差や何かしらの問題点が出てくるのではないかという意見もありました。

今年度の入試もコロナウイルスの影響で試験を数回に分けて行うという意見もあるようですがすべて同じ難易度で数回分テストを作れるのか等で今問題になっていますよね。

また、正確性がない、英検で問われる技能は二次試験で十分問えることができるのでわざわざ複雑なことをする必要がないという意見もありました。

他の学校の高校生にもアンケート調査を行ったところ、英検対策を授業の一環として取り入れている学校もあるようです。そこでもまた差が生まれると思います。

また、もし受験料補助があれば導入してもいいか、と言われるとそれもあまりよく思いません。

先ほど述べた理由もありますが、やはり大学受験、つまり学力勝負というのは一発勝負が一番いいと思います。

私が一番共感した友人の意見はその日の調子の良し悪しも含めて勝負だし、どんな状況下に置かれても自分のベストを出し尽くせる人材こそがこれから必要になってくるし需要があるのではないか、ということです。

(3)どんな高校生も大学入試に挑戦しやすい支援をしていただきたいです。

私は来年度大学受験をする予定ですが、不安なのは入試もそうですが金銭面です。

大学の受験料、入学金で、100万円程お金を使った、という話を聞いたことがあります。

ある大学に合格した場合、入学金の締切がほかの大学の合格発表の前になってしまう場合もあります。浪人するよりはましだからという理由で、多くの受験生は第一志望校ではなくても入学金を支払うそうですが、その大学に入学しないとしても返金されないと聞きました。

私はその実態に疑問を覚えました。入学しないのになぜ入学金を払わないといけないのでしょうか？

そもそも受験料も入学金も、大学進学のためにかかるお金がひとつひとつ高すぎます。そこで進学にかかる高いお金を、国が支援してくださると、大学入試に挑戦できる高校生が増えると思います。

海外の教育現状と比べると日本は政府が教育にかけているお金が少なすぎます。

OECDの調査によってその現状は明確になっているはずですが。

日本は最下位です。

先ほど述べた受験料、入学金に加え、教育面について述べると、例えば病気やいじめ、家庭の事情等で学校に通いたくても通えない人たちに何か支援はできないでしょうか。

タブレットやパソコン等を支援することができればそのような状況に置かれている人でも平等に教育を受けることができるのではないのでしょうか。

大学の無償化という制度もあると末富先生に教えていただいたので、それを利用できるかオンラインシミュレーションを試してみたところ難しく、よくわかりませんでした。

またこの制度があることも私自身含め周りの高校生は知らないと思います。

学校等での説明ももちろんありません。

住民税非課税世帯という低所得世帯の高校生の進学を支える仕組みだと思いますが、あすのばに関わる若者や私の友人の中には、そういう基準でなくても、お金のせいで大学進

学しようかどうか悩んでいる人もいます。

もっと幅広い層の若者が大学の無償化を利用できるようにしてほしいです。

日本の政府は国民からとても遠い存在になっていると思います。政府に意見や改善の提案をしたけど改善されないという話をよく聞きます。

もっと周りの意見を親身に聞きそれを受け止めて今後に繋げて行ってほしいです。

今回の会議に関しても私たちの意見を聞くだけ聞いて改善されないのであれば意味がありません。

(4) 今後の大学入試のあり方の提案・その他大学入試

今後の大学入試のあり方を一つ提案します。

昨日 LHR の時間にポートフォリオという制度について説明を受けました。

昨日の今日なのでアンケート調査は行えなかったのですが私自身はとてもいい制度だと思いました。

学力はとても優れているけど親に強制されたから等の望まない入学で、何もアクションを起こさない人よりも、内面を重視し行動力や人格等を見て、本当に学びたい人を入学させるほうがいいと思います。「好きこそものの上手なれ」という言葉もあるように伸びしろがあると思います。

また、何においても自分から自主的に言動できる人材こそが、これから重要になっていくと思います。

今でもポートフォリオ制度に似た推薦入試がありますが、定員がとても少ないです。

以前推薦入試を受験した先輩に話を聞くと、「推薦入試で受かる確率は宝くじが当たるぐらいのものだ」と言っていました。

またある先生は、はっきりとは言いませんでしたが「推薦入試なんか受けても落ちるだけ。意味がない。交通費や宿泊代が無駄だ」というようなことを話していたように私は捉えました。

以上の理由からもっと内面を重視する受験方法を促進することを提案します。

(5) 長期休校についての不安など

最後に高校2年生として来年度入試に向けて不安なことについて述べます。

まず、例年に比べると当たり前のようですが授業が全然進んでいません、休校中ウェブ授業もありましたが、6/1 から分散登校がはじまり、15 日から普通登校が始まったばかり

です。休校中のウェブ授業の内容のおさらいから入ったので実質 3 か月以上空白になりました。

土日授業はありませんし、夏休み授業は思っていたより少なかったです。

このままのペースで期間内に高 2 の学習内容が終わるのかどうか不安です。